

BCP策定で海外市場での信頼を獲得 — 株式会社アイワクラフト —

新製品で海外市場に挑戦する紙製品印刷加工、 包装用紙開発業者

株式会社アイワクラフト（代表取締役社長：井上和賢）は、昭和63年創業、平成24年に法人化した紙製品印刷加工および包装用紙の開発製造を行う企業である。

主な取扱製品は、書店向けのブックカバーや雑誌用袋などの書籍用品および魚肉など生鮮食品用の包装紙である。書籍用品については、大手書店用の製造受託からオリジナル製品のデザインから印刷・加工までを手掛け、全国100書店以上に対して小口の生産受注・配送を手掛けている点が、強みである。

一方、新製品として自社独自の技術を活かして魚・肉など生鮮食品用の包装用紙を開発し、昨年より市場投入した。既に、国内のみならず米国向けに輸出実績があり、今後はアジア市場への展開を進めているところである。本製品によって生鮮食品の鮮度を維持した新たな流通形態の実現を目指している。



書籍用品の老舗製造業者

ブックカバーや雑誌用袋など書籍用品の印刷加工業者として30年の歴史を有している。昨今、書籍販売が低迷する中、全国規模の大手書店からの受託製造やオリジナルデザインの製品を100軒以上の書店向けに小口製造。配送を行っている。



生鮮食品の包装用紙“バリアラップロール”

当社が新たに開発した生鮮食品用包装紙“バリアラップロール”は、フィルムと不織布を貼り合わせた包装紙である。抗菌処理したフィルム面を食品に接することで、紙の繊維質が食品に付着せず“身離れ”が良く且つ衛生的である。このフィルムには小穴を施しており、食品から出る水分は、この小穴を通じて不織布が吸収するため、接触面のべとつきがなく、食品鮮度の維持しながらの持ち運びに適している。国内では水産加工業者・卸売業者向けに納入を開始しており、また、米国カリフォルニア州向けに継続的に販売している。更に、インド洋のマグロ・カツオなどの水産加工業者より引合いを受けており、アジア地域への拡販を進める予定である。



BCP策定への取り組んだ理由

書籍関連製品については最大の顧客が全国規模の大手書店であり、同書店との間で災害時における製造・納品体制の確立についてはかねてより協議を行ってきた。一方、食品包装紙については、特殊な原反を使用していることより、仕入れ先との連絡網の確立、また、米国の客先よりは安定供給体制の構築を重要視されていることより、BCPの策定はかねてよりの課題であった。

当社は本社・製造部門は板橋区、総務・経理部門は文京区と2拠点に分かれていることより、災害発生時の拠点間の連絡、対策本部設置・指示命令系統の一本化などの課題を有しており、その対策の点からもマニュアル化しておく必要があった。



株式会社アイワクラフト
代表取締役社長
井上和賢氏

策定にあたり特に注力した点

BCPの策定は、単なる災害時の対応マニュアルに留まらず、経営方針の延長であることより、自社の経営方針と将来像について熟考した。今回策定したBCP書類自体はコンパクトなものであったが、方針の策定については時間をかけて検討し、その結果を盛り込んだ。方針を定めた後、マニュアルに従い作業を進めた。

海外の顧客との取引は国内の商社経由であるが、商社が同時に被災することを想定して、海外顧客と直接連絡を行うことが出来る様、連絡網を整備した。工場内の現状については図面だけでなく出来るだけ写真で記録することとした。

今回策定したBCP文書は、定期的に更新し、更に防災訓練を実施する計画である。



BCP策定の感想・効果

書籍関連製品については、書店で日々で使用しており欠品は許されないため、安定した供給体制は非常に重要である。また、食品包装材については海外の顧客に提供しているため、災害時の対応策を整備していることは営業政策上大きな利点となる。今回のBCP策定によって、当社の品質のみならず有事の際の対応力を顧客に訴求して、販売促進に繋げて行きたいと考えている。

また、BCPの策定作業は経営方針や当社の将来像について検証する貴重な機会となった。

自然災害の脅威が高まっている昨今の状況下、有事の際の対応力に優れた企業として、顧客、従業員をはじめ内外の関係者に対して当社の存在感をアピールしていきたいと考えている。

事業者情報

事業者名 株式会社アイワクラフト

本社所在地 板橋区舟渡3-5-8

設立 平成24(2002)年6月

資本金 100万円

従業員数 6名

代表者 井上 和賢

Tel 03-3960-5110

URL <http://www.iwakraft.com>